

保護費の削減

もってのほか

埼玉・所沢市

(57歳)

生活保護費削減に怒り心頭だ。削減の根拠もい
いかげん、庶民の生活実
態をまるで理解していな
い。生活保護受給者は増
加のうえ、保護対象世帯
でも受給できない事実が
ある。

子どもたちに及ぼす影
響を考えたことがあるの
だろうか。貧困の中にお
かれた子どもは、場合に
よっては親を憎み、世間

やおとなが信じられなく
なる。心に深い傷を持ち
ながら成長していく。貧
困は連鎖するから、成長
してからも、まともな生
活へのスタートラインに
立てず、自己肯定感を持
つことも困難になる。

私の父は交通事故で瀕
死(ひんし)の重傷を負っ
たが一命をとりとめた。

見た目は健常者に近い
が、脳の損傷で働くこと
ができなくなった。とこ
ろが、生活保護の温かい
手は差しのべられず、水
道も電気もない生活をす
る状況におかれた。19
65年頃のことだった。

その経験から思うこと
は、子どもを苦しめたら
いけない、生活に困った
ら社会保障が誰でも受け
られる世の中にしなけれ
ばだめだということ。だ
から保護費の削減はもっ
てのほかだ。